



学校だより

6月号

平成28年6月6日
足立区立第四中学校
校長 高橋 淳

朝礼での校長講話より(5月9日)

熊本では1000回を超える地震が1か月以上続いています。車中泊や避難所生活で体調を崩している人もいます。そのような状況の中で、本日(5月9日)から全校で学校が再開することになりました。それでは、なぜきょうまで再開できなかったのかというと、学校が避難所になっていたからです。体育館や教室に被災者の方が寝泊りをしていたので、再開できなかったのです。その避難所で、中学生が食料を配るなど運営に積極的に関わっていたという報道が多くされています。

東日本大震災のときも、整然と食料等の配給ができたことをとおして、日本人は世界中から絶賛されました。熊本でも同様です。なぜこういった行動ができるのだろうか。日本の学校生活には、清掃、学活、総合的な学習の時間、給食など教科以外の教育活動があります。こういった活動は日本独自のものです。日本では学校で勉強以外に、生活のことやマナー、人としてわきまえるべきことを学んでいると言えます。その結果、震災などの大変な状況の中でも我慢ができるように育ってきているのではないのでしょうか。日本の教育の素晴らしいところだと思います。

普段の学校生活を振り返ってみると、日常生活の中で、勉強以外の場面でがんばっている人がいるはずです。それも大切だということを学校で学んでいるのです。生活をし、協力をするということをぜひ、学んでほしいです。

四中の誇り 運動会



5月28日(土)、本校校庭で運動会を開催しました。5月16日に結団式を行ってから、毎日、各学級の運動会実行委員会を中心に練習を重ねてきました。また応援旗作成委員会も学級ごとに決め、工夫を凝らしたデザインの応援旗を作成しました。

運動会当日は、入場行進、開会式に続き、ラジオ体操、競技が始まりました。学年種目のグリーントルネード(1年)、蛇の皮むき(2年)、大ムカデ(3年)は、ど

の種目も生徒たちが気持ちを合わせようとしないうまくいかない競技です。また学級全員が走るオールメンバーズリレーも、お互いをカバーしあっていく作戦を立て、バトンパスが上手にできるようにと練習してきました。練習を重ねる中で、他の人の失敗を責めるより、認め合い、励まし合っていくことの大切さを生徒たちは学ぶことができました。



2、3年生女子による「四中御神楽」は、今年度初めて挑戦した種目です。太鼓のリズムに合わせ、扇と錫杖を持った生徒たちが軽快に、また力強く踊ります。きりっとした表情と凛とした立ち居振る舞いに「素晴らしい」との声があちらこちらから聞こえてきました。

毎年恒例の2、3年生男子による組体操は、危険防止のために今年度はいきませんでした。代わりに男子が力強くタイヤを運ぶ競技「胸に抱け 四中 PRIDE!」を行いました。予行練習から気持ちを切り替え、四中の誇りを感じられる競技にしようとがんばりました。

運動会最後を飾る学級対抗リレーは、全員の歓声が響く中で行われ、各選手の走る速さに喝采を送りました。

練習期間に大きな音でご迷惑をおかけしたにもかかわらず、温かく見守ってくださった地域の皆様、当日、整理等で学校を支えてくださった保護者の皆様、ありがとうございました。



第4地区少年団体協議会運動会

5月8日(日)、足立区第四地区少年団体協議会が主催する連合運動会を本校の校庭で行いました。地域のこども会からの選手が参加しましたが、本校からはボランティア 38 名と吹奏楽部が参加しました。スターターや商品を渡す係などの係活動をしたり、選手となって子どもたちと一緒に競技したりしました。

昼にはカレーライスをごちそうしていただき、楽しい一日になりました。参加した皆さん、暑い中、お疲れ様でした。



オリンピック・パラリンピック教育の取組

2020年に開催予定の東京オリンピック・パラリンピックに向けて今年度からオリンピック・パラリンピック教育が始まります。この教育では「オリンピック・パラリンピックの精神」「スポーツ」「文化」「環境」の4つのテーマを設定し、「学ぶ(知る)」「観る」「する(体験・交流)」「支える」の4つのアクションを組み合わせた多彩な取組を行います。

本校ではその取組の一つとして、7月に行われるリオデジャネイロオリンピック日本代表選手団応援イベントに希望生徒が参加します。

スクールソーシャルワーカーさんより

今年度から本校にスクールソーシャルワーカーが配置されることになりました。スクールソーシャルワーカー(SSW)とは、学校に配置される福祉の専門職です。子どもの置かれた環境(学校・家庭・地域等)による問題に働きかけ、福祉的な知識と技術をもって支援する方です。スクールカウンセラーが子どもが抱える心の問題を支援するのに対し、SSWは、子どもを取り巻く生活(環境)の問題を支援します。

はじめまして。スクールソーシャルワーカー(SSW)の金澤 茂(かなざわ しげる)と申します。今まで高齢者や障がいをおもちの方を対象に福祉の仕事をしていましたが、児童・生徒の皆さんをするのは初めてになります。

今年度、第四中学校を訪問させていただくことになりましたが、みなさんが、学校や地域で毎日を安心して過ごしながら、それぞれの可能性を伸ばせるように、先生方や生徒のみなさん、ご家庭といっしょに考えていきたいと思っています。

授業や給食におじゃますることもあるかもしれません。どうぞ、よろしくお願いします。

教育支援資金の案内

世帯の自立を支援するための貸付制度として、「生活福祉資金」があります。その中の一資金として「教育支援資金」があります。以下はその案内から抜粋したものです。

「『教育支援資金』は、資金を貸付することにより、進学や修学の継続を支援し、世帯の将来的な自立につなげることを目的としています。就学中から卒業後に就職して返済を終えるまで、継続的に相談支援する制度です。

原則として、就学する本人が資金の借受人となり、世帯の生計中心者が連帯借受人となって資金の貸付を行います。」

学校にパンフレットがありますので、担任または副校長までお声かけいただくか、足立区社会福祉協議会(電話 3880-5740)までお問い合わせください。

栄光を称えて

空手部 第24回全国中学生空手道選手権大会・第19回関東中学生空手道選手権大会 東京都予選会

女子個人形	優勝	3年	今井えり			
女子団体形	優勝	3年	福島愛理	今井えり	2年	米盛希々子
女子団体組手	優勝	3年	福島愛理	今井えり	2年	米盛希々子
男子個人組手	準優勝	3年	別部秀			
男子団体形	第3位	2年	中畑大志	1年	佐藤大空	庄山晃汰